

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590700161		
法人名	有限会社誠心会		
事業所名	グループホーム笠戸		
所在地	山口県下松市大字笠戸島32-38		
自己評価作成日	平成30年5月18日	評価結果市町受理日	平成30年11月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成30年6月12日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①私たちは、地域で開催される運動会や公民館祭り、ふれあい祭りや火祭りなどへ積極的に参加し地域の皆様と寄り添ったお互いを信頼する関係を大切にしています。②食事をいちばん楽しみにしている利用者の方のために季節感のある食材や私たちが育てた畑で採りたての野菜を調理するなど、利用者の方に“美味しい”と言っていただける食事を提供しています。③今年のお誕生日会は、利用者の方の誕生日にドライブを兼ねて外出をして笠戸島ハイツでのお祝いの食事で“ハッピーバースデー”です。④毎月15日を「避難訓練の日」と定め、利用者の方の安全で安心な暮らしができるよう取り組んでいます。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

全職員が常に事業所の理念を意識して利用者に関わっておられ、その人らしい暮らしを支援するために、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めておられます。誕生日に、利用者と担当している職員と一緒にランチに出かけられたり、夫が入所している施設に出かけられたり、自宅周辺をドライブされたり、パチンコを楽しんでおられるなど、個別の外出支援に取り組み、喜びや張り合いの持てる生活を支援されています。利用者は地域のお祭りや運動会など様々な行事に参加されて、地域の人と交流されている他、ボランティア(ハーモニカ、エレクトーン、舞踊、フラダンス、手品など)として来訪される人々と楽しく過ごされているなど、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるように支援に取り組んでおられます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム笠戸独自の理念を掲げ、その理念を共有して実践している。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念を全職員で話し合っつくり、事業所内の2箇所に掲示している。朝の申し送り時に唱和している他、管理者は日頃の業務の中でも折りに触れその理念を目で確認するように職員に声かけして、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の住民として、地域で行われる行事や触れ合い祭り、夏祭り、どんど焼き、運動会などに職員と一緒に参加して日常から地域の皆様との交流を大切にしている。	自治会に加入しており、地域の草刈り作業に職員が参加している。事業所主催のふれあいカフェには地域の人の参加があり、交流している。秋の火祭りには利用者が舞台上で歌を披露して楽しんでいる他、愛ランド祭り、ふれあい祭り、夏祭り、運動会、どんど焼きなどの行事に参加して地域の人と交流を深めている。併設のデイサービスセンターに出向き、来訪しているボランティア(マンドリン、エレクーン、尺八、ハーモニカ演奏、舞踊、フラダンス、手品、腹話術など)を楽しみながら地域の人と交流している。地域の人からレモンやびわなどの差入れがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の民生委員や皆様からのご意見やご質問・ご相談などは常時受け付けており、その都度、認知症に対する実践経験を基に、ご理解を深める努力をしている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全職員が自己評価及び外部評価への取り組みを行ってその意義を理解し、評価で学んだことを職員ミーティングなどで全職員が活かし合っている。	管理者は評価の意義を説明し、全職員に自己評価をするための書類を配布している。職員が書き入れたものを管理者がまとめ、職員に回覧して共有している。前回の評価結果を受けて目標達成計画を立てて、地域密着型サービスの意義をふまえた理念の作成や全職員での自己評価への取り組みなど、具体的な改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会は、ご家族や地域、認知症に対する専門的な知識を有した皆様の会議であり、私たちの運営状況やご意見を有効的に活かすために、できるだけご意見が出やすいように座談会方式や食事会などを検討している。	会議は2ヶ月に1回開催し、利用者の状況、事業報告、行事予定、研修報告、事故報告などを行い、意見交換している。地域の行事の情報を得て利用者と一緒に祭りに出かけるなどサービスの向上に活かしているが、参加者からの意見はあまり出ていない。	・議題の工夫
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には必ず参加していただき、事業所の実情やケアサービス状況を報告し、協力関係の構築に取り組んでいる。	市担当者とは、直接出向いて相談して助言を得たり、情報交換をして協力体制を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時に情報交換し、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員に対して、「身体的拘束ゼロへの手引き」を参考に繰り返し教育・訓練を行っている。玄関の施錠については、日中は行っていない。	職員は職員会議などで身体拘束について学び、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関には施錠しておらず、外出したい利用者とは一職員が一緒に出かけて気分転換を図るなど工夫している。スピーチロックについては、気づいた時にその都度管理者が指導している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法は職員間で周知徹底している。また、そのような状況が発生しないよう職員間で注意を払っている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員ミーティングなどで権利擁護制度について必要性を理解しており、その対象者もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者の方及びご家族の皆様には、契約内容や管理規程など十分な説明を行い安心していただけるようご理解と同意を得て納得をいただいている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	受付にご意見箱を設置し、ご家族の面会時等、ご意見、ご相談、ご要望等を受け入れており、職員ミーティングや相談員制度、運営推進会議などの機会を通じて反映させている。	苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。毎月、事業所だよりと行事予定表を送付して利用者の様子を知らせている他、面会時、運営推進会議時、行事参加時、電話などで家族からの意見を聞いている。3ヶ月に1回、介護相談員が来訪して、利用者の話を聞いている。ケアに対する要望などはその都度対応している。運営に反映するまでの意見や要望は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や職員ミーティングなどで意見の出し合いや提案等の機会を設けて運営が良くなるよう反映させている。	年1回代表者による個人面談がある。管理者は毎月のミーティングや申し送り、日頃の業務の中で職員からの意見や提案を聞いている。入浴対応などの業務内容の検討や休憩時間の設定など職員からの提案を受けて話し合い、運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員との個別面談の場を設け、各職員が各自向上心を持って働けるよう職場環境及び条件の整備に取り組んでいる。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議や職員ミーティングの場で計画的な職員研修会を実施して職員の資質向上に努めている。また、全職員に外部研修会の情報を周知しできるだけ参加するよう努めている。	外部研修は、職員に情報を伝え、段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は、毎月の拠点施設全体会議時に資料を配付して復命し、共有している。資料は閲覧できるようにしている。今年度は介護技術専門講座(3回)、ケアマネージャー研修、主任ケアマネージャー研修、看護の日の市民講座に参加している。内部研修は、管理者が講師となり、接遇マナー、利用者の心身機能向上、転倒、転落、筋力低下予防、緊急時の対応、排泄をテーマに実施している。	・研修内容の充実

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との積極的な交流を図る目的で先日グループホーム連絡協議会の初顔合わせを行った。今回(5/25)は、私たちの事業所で行いネットワークづくりに取り組んでいる。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する前に施設のご案内やご本人との面談を行って、困っていることや不安なことご要望等を十分お聞きして安心していただけるよう努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居する前にご家族にも施設を見学していただき、毎月発行しているホームの便りなどを紹介してご要望を聞きながら安心してお任せいただけるような関係づくりに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族のご意向をしっかり把握したうえで、いま必要とされる支援を見極めてご本人やご家族に信頼されるサービスの提供に努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、共に暮らすという意識を持ち、食事や掃除洗濯など日常から“有難う”や“助かりました”等の声掛けをして助け合いの関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族がいつでも気楽に訪問していただける雰囲気づくりをして、良好なコミュニケーションづくりをして共に支えていく関係を築いている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の方が気軽に訪問していただける雰囲気づくりをして、訪問された際にはゆっくり寛いでいただけるように努めている。	家族の面会や親戚の人、友人、近所の人などの来訪がある他、電話や年賀状の支援をしている。自宅周辺のドライブ、入所中の夫の面会、家族の協力を得ての外泊、外出、法事への出席や墓参りなど、馴染みの人や場所との関係が継続できるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の方々が一緒に生活する家族として仲間になっていただけるよう努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスのご利用が終了した場合でも、例えば、長期入院等の場合、お見舞い行ってお話を伺うなどを行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で、ご本人のご希望を傾聴して把握に努めている。また困難な場合はアセスメントシートなどを参考にしてできる限りご本人本位となるよう見守っている。	入居時のアセスメントシートで生活歴、暮らしぶり、得意分野、意思の疎通など聞き取り、活用している他、日々の関わりの中での気付き、利用者の言葉、活動、体調、声かけの様子などを介護記録に記録して思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族からの聞き取りを参考にして職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の基本情報やご家族からのご相談事、ご本人からの話の上で生活歴や馴染みの暮らし振りなど経過の把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中で、一人ひとりの出来る力、ご理解度などを見出して得意な分野等でやる気を出すよう努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議で一人ひとりの問題点や日々の活動及び状況などを話し合い、その結果を意見やアイデア等反映して介護計画を作成している。	計画作成担当者と担当職員が中心になって月1回のカンファレンスを開催し、本人や家族の思い、主治医、看護師、担当職員の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。6ヶ月ごとにモニタリングを行い、見直しをしている。利用者の状態が変化した場合は、その都度話し合っって見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の方の一人ひとりの日々の様子やケア方法の実践について、記録し職員間で共有しながら見直しに生かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の方の状態に変化が生じた場合など、医療機関やご家族等と連携を取りながら柔軟なサービスに取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の自治会や公民館あるいはボランティア(歌・朗読・舞踊・フラダンス・楽器演奏会など)の皆さんと協働して心豊かな暮らしができるよう支援している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関をかかりつけ医として、2回/月往診を行っている。また、病状により、ご家族や看護師と相談しながら他医療機関で受診するなど適切な医療が行われるよう支援している。	利用者全員が協力医療機関をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療がある。他科受診は事業所が支援しており、家族と病院で合流したり、受診結果を電話で報告している。月2回訪問看護師が来訪して利用者の健康管理を行い、職員からの相談や緊急時の対応などの指導をしている。夜間や緊急時は協力医療機関に連絡し、指示を受けて救急車の要請をするなど、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師には随時報告・連絡・相談を行っており、定期的あるいは突発的な場合においても適切な受診や看護を受けられるように対応している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された日からご本人に寂しい思いをされないようお見舞いに行き、ご家族や病院関係者との情報交換や相談に努め、より良い関係づくりを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にご家族と重度化した場合の対応等を事前に説明しており、実際にホームでの生活が困難になった場合には、ご家族、主治医、看護師、ケアマネ、職員と十分な話し合いを行い共有して今後の支援に取り組んでいる。	重度化や終末期に向けて事業所ができる対応について契約時に家族に説明している。実際に重度化した場合は、家族の意向を聞き、主治医、看護師等と話し合い、医療機関や他施設への移設を含めて方針を決めて共有して支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	看護師による職員研修会や過去の事例を参考に事故防止に取り組んでおり、事故発生時の初期対応訓練も定期的に行い実践力に役立っている。	対応した職員がヒヤリ・ハット報告書、事故報告書、介護記録に記録し、対応策を記入して全職員に回覧し、共有して再発防止に努めている。年2回ミーティング時に看護師が講師となり、事故発生時に備えて、緊急時の対応(転倒、火傷、窒息、誤嚥など)の訓練を実施しているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月15日を「避難訓練の日」と定めて利用者の方と職員全員で火災・土砂災害・水害発生等を想定した避難訓練を行っている。地域との協力体制については地域自治会との話し合いを進めている。	年1回消防署の協力を得て、拠点施設合同で消火、避難訓練を利用者と一緒に行っている他、市の出前講座を受講して避難訓練、情報伝達訓練を利用者も参加して実施している。毎月15日には併設のデイサービスセンターと合同で火災、土砂災害、水害のいずれかを想定した避難訓練を利用者と一緒に行っている。地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬意を払い、利用者の方に対する言葉遣いや態度などについても一人ひとりのプライドを傷付けないように教育・訓練を通じて共有している。	施設長や管理者はミーティング時に利用者に対する言葉づかいや対応について指導しており、職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人情報の取り扱いや管理に留意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	集団での作業や行動を強要しない。また、「プチショッピング」などで利用者の方が自己決定できるように選択肢を用意して働きかけている。			
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の流れは基本的には設定しているがご本人の意思に沿って一人ひとりのペースに合わせた支援を行っている。			
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1回/2ヶ月は訪問美容師にカットしていただいている。また、自立歩行できる方は美容室でのお洒落を楽しんでいただいている。			
41 (18)		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が献立、食材の買物や調理を行い、利用者の方にも食材の下ごしらえやテーブル拭きなどを手伝ってもらい同じテーブルで同じ食事をしている。	朝食の準備と毎食の炊飯は事業所で行い、昼食、夕食の副菜は法人の栄養士がたてた献立を元に併設のサービスセンターの厨房で調理している。事業所の畑で収穫した野菜を食材として利用している。事業所では差入れの食材でおかずを一品追加したり、利用者が食べやすいように形状の工夫をしている。利用者はテーブル拭き、お盆拭きなどできることを職員と一緒にしている。利用者と職員は一緒にテーブルを囲んで食事を楽しんでいる。季節の行事食(おせち、節分、そうめん流し、クリスマスなど)、おやつづくり(ホットケーキ、おはぎ、お好み焼き、寒天、ゼリー、ふかしじゃがいもなど)、お弁当やケーキセットを囲んでの女子会、おにぎりやお弁当持参の花見や果物狩り、外食(ファミリーレストラン、うどん店など)、誕生日のランチ(担当職員と個別に外食)、家族の協力を得ての外食など、食事を楽しむことができる支援をしている。		
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量は毎食記録して把握している。また、一人ひとりの好みや状況に応じて刻み食等の対応をしている。今後は、糖尿病食等にも気を配り支援していく。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・昼・夕食後に必ず口腔ケアを行って口腔内の清潔保持を行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握して、声掛けや誘導などの支援を行っている。	排泄チェック表をつくり、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、その人に合わせた声かけや誘導をしてトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を作成して毎日確認している。また、食事の工夫や水分補給等にも努め毎日の体操やウォーキングで予防に取り組んでいる。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりのタイミングに合わせて一日おきに入浴あるいは体調に応じて清拭やシャワー浴などを行っている。入浴は「草津の湯・別府の湯・バラ湯」など気分を変えながら入浴を楽しんでいただいている。	入浴は毎日、9時30分から11時頃まで可能で、利用者一人ひとりの体調や希望に合わせて隔日に入浴できるように支援している。利用者の体調に合わせてシャワー浴や足浴、清拭で対応している。入浴したくない利用者には時間をずらしたり、声かけを工夫して支援している。入浴剤を使用したり、毎週日曜日は全員が足浴をして手足の爪切りを支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日をゆったり・のんびりとスローライフを楽しんでいただくことが一番です。昼食後、テレビを観ながらうとうと居眠りできる空間があり、安心して気持ちよく休息できるよう暖かく見守っている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬をファイルに収めて処方情報を共有し、処方変更時の状態の変化などがあればその都度かかりつけ医にも報告をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事作業を始め、洗濯物干しやたたみ、新聞紙の仕分けやごみ箱作り、脳トレゲームやお茶会、フラワーアレンジメントなど利用者の方が色んな楽しみや役割など生活にメリハリをつけて過ごしていただけるよう支援している。	テレビ視聴、DVD視聴(歌番組)、新聞、本、歌、カラオケ、ちぎり絵、ぬり絵、貼り絵、折り紙、カルタ、脳トレ(漢字、計算)、しりとり、間違い探し、ラジオ体操、口腔体操、百歳体操、風船バレー、フラワーアレンジメント、おやつづくり、プチショッピング、季節の行事、地域の祭りや運動会への参加、ボランティア(マンドリン、ハーモニカ、尺八、舞踊、フラダンス、手品など)との交流、洗濯物干し、洗濯物たたみ、おしぼりたたみ、テーブル拭き、お膳拭き、カーテンの開閉、日めくり、新聞とチラシの仕分け、野菜の収穫、育てたユリの花を届けるなど、たのしみごとや活躍できる場面づくり、利用者が張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一日の生活リズムの中に屋外散歩を組み込んでいる。また、地域のお祭り事には積極的に参加して多くの皆様と触れ合う機会を設けている。今年のお誕生日会には笠戸島ハイツのランチで祝膳を取ったり、一人ひとりの誕生日に合わせて一緒に出掛けるなどの支援を行っている。	周辺の散歩、お花見ドライブ(梅、桜、コスミスなど)、ぶどう狩り、梨狩り、地域の行事への参加(ふれあい祭り、夏祭り、アイランド祭り、火祭り、運動会、どんど焼きなど)、個別支援(誕生日の夕食、パチンコ店、自宅周辺のドライブ、夫の入所施設への面会など)をしている他、家族の協力を得て外出、外泊、法事への出席、墓参りなど戸外に出かけられるよう支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が難しいため、基本的には所持金はないが、1ヶ月に1回、一人ひとりが100円を持参して希望するおやつを買うなどの“プチショッピング”を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話についてはその都度対応している。 また、年賀状などは利用者の方の手書きに一筆添えるなどの支援を行っている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節のフレッシュな花や廊下には季節に応じた職員の手作りの作品を飾り季節感のある居心地の良い環境づくりに努めている。	居間や食堂は明るく、広々としており、大きな窓からは自然の光が差し込み、緑の山々や畑の野菜を眺めることができ、季節の移ろいを感じることができる。ダイニングテーブルやイス、大型テレビの前には大きなソファを配置し、利用者が思い思いの場所でくつろげるように工夫している。テーブルには利用者のフラワーアレンジメントの作品が飾っており、廊下の壁面には職員の作品や利用者や職員と一緒につくった季節の作品をかざって、季節感を感じることができる。温度や湿度、換気などに配慮して利用者が居心地良く過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	適度なBGMや音楽テープ、適温調整や換気など、テーブルや椅子の配置にも工夫をして、一人ひとりの居場所づくりににも配慮している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は、利用者の方やご家族と相談しながら使い勝手が良い配置にしており、今まで使用されていた馴染みの品物や大切なご家族の写真などを飾ったりしてその人らしい個性のある居室となっている。	整理タンス、机、イス、籐椅子、時計、衣装掛け、テレビ、三段ケース、ぬいぐるみなどの使い慣れたものや好みのものを持ち込み、家族の写真や手づくりカレンダー、寄せ書きの色紙などを飾って本人が居心地良く過ごせる様に工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全第一と清潔を最優先して危険の無いよう不要なものは取り除き安全と安心、そして自立に向けた生活が送れるように工夫している。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム笠戸

作成日：平成 30 年 11 月 13 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5	運営推進会議を活かした取り組み課題の工夫について	参加者からの意見がもっと出ると良い。	参加者は2ヶ月おきにある運営推進会議を楽しみに来られ、学ぶことが大きいと言われる意見もある。お茶を用意し懇談的な雰囲気を作りたい。	1ヶ月間
2	14	職員を育てる取組み研修内容の充実について	(有)誠心会でのリーダー会議・笠戸島福祉介護センター合同勉強会 グループホーム笠戸独自の勉強会等、他機会があれば、参加していきたい。	この度11月13日に下松のグループホーム連絡協議会の一環として皮膚に対する応急処置の講習へ職員3名参加します。 場所：グループホーム・周南はびね	1ヶ月間
3	35	事故防止の取り組みや事故発生時の備え全職員が実践力を身につけるまでに至っていないことについて	応急処置、応急手当の訓練の実施を取り組んでいく。	看護師による応急手当の初期対応の訓練を6ヶ月に2回定期訓練を行っていく。	1ヶ月間
4	36	災害対策地域との協力体制を築くまでには至っていないことについて	地域の方々が大変協力的に対応して頂けるので再度お願いしていく。	平成30年7月15日に地域の方を交えて避難訓練を計画していた矢先に7月6日の集中豪雨被害により現実の大避難を経験させてもらった。12月の運営推進会議の議題として再度取り上げていく。	2ヶ月間
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。